



# う 羽 化 か

1999年12月  
第17号

横 浜 漢 点 字 羽 化 の 会  
〒231-0851 横浜市中区山元町2-105 Tel 045-641-1290  
発行責任者 代 表 岡 田 健 嗣  
編集責任者 宗 助 悦 子



## 目 次

漢点字変換ソフト「EIBRK」について（木下 和久）	・・・	i
署名活動の収束と今後の展望について （岡田 健嗣）	・・・	1
漢点字公認活動のご報告と御礼（野島 静）	・・・	2
漢点字で盲教育をお願い致します（東野トシエ）	・・・	3
連載「点字から識字までの距離」（16）（山内 薫）	・・・	9
いのち 「 <sup>い</sup> 「 <sup>ち</sup> 靈の巫」 命（伊藤 邦博）	・・・	11
点字の読みづらさと漢点字の触読について（5） （岡田 健嗣）	・・・	16
イラスト版「漢点字ってどんな字？」（16）	・・・	21

## 署名活動の収束と今後の展望について

代表 岡田 健嗣

本誌十四号（本年六月発行）に、元鳥取県立盲学校教諭の野島静先生からご寄稿をいただき、漢点字の公認を求める運動を展開すべしというご提言がございました。先生は運動の皮切りとして、署名活動を挙げられて、「盲教育に漢点字の導入をすすめる全国協議会」を組織されました。以来先生は精力的に運動に邁進されて、現在に至っております。本会もそれに呼応してこの八月初頭から、その活動に参加して参りました。

各地の本誌読者の皆さま、横浜市中心図書館、横浜市社会福祉協議会、墨田区立緑園図書館をはじめ、各公共機関の職員の皆さまやその利用者の皆さま、あるいは各地域のボランティアの皆さま、そして本会会員と東京漢点字羽化の会の会員、及び船橋市の点訳グループうさぎの皆さまには、献身的に署名を収集してくださいました。また、本会の利用者である視覚障害者の皆さまも、積極的に足を運ばれ、大いにこの活動の意義のご理解を賜るとともに、署名の収集に努めて下さいました。ここに頂戴しております署名を拝見してお

りますと、町内会、商店会等生活の地域に根ざして輪を広げて下さいました皆さまや、企業や工場等のお仕事の場、ボランティア活動の拠点、あるいは社会福祉の現場やコミュニケーション等、社会活動の場に輪を広げて下さいました皆さまのお姿が、くつきりと見えて参ります。誠に頓首して御礼申し上げます。

皆さまにはこの八月に署名活動へのご支援をお願いして、早四カ月を過ぎました。そろそろ収束して、次のステップに移らなければならない時期と考えております。

現在私の手許に届いております署名の数は、概算で六千人分です。これから届くものを含めると、一万八千人分を越えるようです。当初の予想をはるかに越えた成果と申してよいものと存じます。これも一重に皆さまのお力添えの賜と感謝に堪えません。

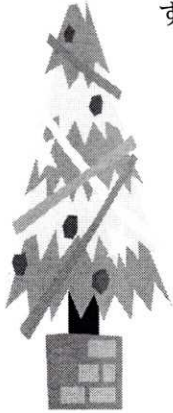
今後の展望については、野島先生の文にもありますように、鳥取の皆さまによって、年明け早々から署名の集計に入っていただきます。その後、すすめる会の発起人を中心に陣容を調べて、文部省に請願を行うこととなります。

しかし、すんなりとことが進むことは考えられませんが、入念に検討を重ねて、辛抱強く進めて行ければと考えております。

さて、この運動の最終の目的はと申しますと、本誌に載録させていただきました東野トシエさまのおっしゃるように、視覚障害者も健常者と同様に、漢字の教育を受けて、自らの選択で文字の情報を享受できる社会の実現です。それには、現在生きております視覚障害者自身が、そのような社会への欲求を持って、その実現に弛まぬ努力を重ねなければなりません。残念ながら現状は、そのような状況にははるかに遠いものを感じない訳には参りません。

視覚障害者も高学歴となつて参りました。にも関わらず、漢字を知らぬまま大学に通つて、何の不都合も感じていない状況があり、そのような学生を何の咎めもなく受け入れている教育現場の存在があります。このような状況は、社会における視覚障害者の位置の反映に違いなく、一人前の社会人として認められていないという認識を、未だ十分持ち得ないであることを示しているように思われます。

私たちはこのような状況を今少し風通し良くできれど願つております。



## 漢点字公認運動の二報告と御礼

盲教育に漢点字の導入をすすめる全国協議会

代表 野島 静

漢点字の公認を目指して署名活動に着手しましたのは、今年の8月初旬でありました。それから4ヶ月、皆様の絶大なご理解、ご支援によりまして、署名は順調に集まり、当初目標とした一万人を大きく上回つて二万人を悠に超えております。この分なら、最終締め切り予定の12月末までには三万人に達するものと思つていきます。これ一重に、皆様のおかげと心より感謝申し上げます。

なお、私は署名活動と平行して、全国盲学校のPTAの方々を初め、一般社会の多くの人々に読んで、漢点字に対する理解を深めていただくような文集作りに取り組んでいます。読む人の心を打つ秀作が沢山寄せられています。「漢点字に出会った感動一杯」の文集になりそうです。その中のなん編かは、順次この「うか」に掲載していただけるものと思ひますので、ご期待下さい。

私は、全国の声を集めた沢山の署名用紙の他に、文集その他の資料が整い次第、文部大臣初め関係当局に

漢点字の公認について陳情に参るつもりでおります。その時期は準備の都合もあり、おそらく、来春3、4月のころになるうかと思っております。私たちの熱い思いは必ず報いられると確信しています。

私は皆様のご協力を励まされてここまで歩いてこられました。どうか今後共、皆様のご指導、ご支援をお願い申し上げます。

以下の文は、東大阪市にお住まいの、本会の読者である東野トシエさまが、漢点字公認に向けての活動の一つである文集作製に対してご寄稿されたものです。東野さま並びに野島先生のお許しによつて載録させていただきます。

なお、冒頭に「欧州紀行」とありますのは、川上先生が、漢点字学習者向けに書き下ろされた読み物で、学習用テキスト「漢点字解説」に掲載されております。内容は、先生がヨーロッパをご旅行された時の思い出を、ユーモアたっぷりの文体で、学習者が習得したばかりの漢点字を、楽しみながら読めるよう工夫されたものです。圧巻は、当時のソ連邦の滞在記で、ミステリアスな出来事と、ユニークな観察眼に引き込まれた人も多いでしょう。

漢点字で盲教育をお願い致します

1999年11月

鍼師（自宅開業）東野 トシエ

私は大阪府立盲学校出身です。川上先生がお書きになられた漢点字のテキストの欧州紀行を読み研究室へ伺いました。そのとき、漢点字が誕生するまでのことをよく話して下さいました。懐しく思い出しつつ書かせていただきます。

### 漢点字の誕生

漢点字は、1969年に元大阪府立盲学校教諭で高等部に所属し物理を教えておられた故川上泰一先生によつて創案されました。

川上先生が同校の図書館長をしておられたとき、盲生徒に読後感を聞かれ、「日本文化の醍醐味を盲人にも味わわせてやりたい。」と思われ、漢字無しでは日本文化はなりたない、どうしても盲人が読み書きできる漢字の点字が必要である。「よしわしがつってやる。わしは盲人が好きや、その好きな盲人のために一生かける、校長の座も財産も何もかもいらん」と決心され、漢点字を創案して下さいました。

また、こんなこともおっしゃっていました。「わしが死んでもわしの創案した漢点字で日本文を読んでもくれ。盲人も国文学科に進学してくれ。盲人の文学博士も夢ではないぞ。国語の教諭の誕生を望んでいる。漢点字を利用するようになると盲人の職業の選択肢が増えるぞ。英語も漢点字で勉強すると理解力が高まる。物理の教科書を漢点字で作りたい。今までに漢字の点字をと思った人がいなかった、わしが創めてそのことに着目した、せやから考案ではなく創案や。この創の字にははじめという意味がある、こういうことは漢点字で読まんと分かんぜ」。

川上先生は、東京物理学校（現在の東京理科大）の出身です。また、某大学の国文科の講義を潜りで聴講されていたこともあるそうです。そして、終戦まで航空機を研究されておられました。何の研究でも多方面から実験を繰り返し、それを分析することが大切だとよくおっしゃり、漢点字を創案するに当たっても、触読は凹面より凸面がよいことや、点線は角数の多い漢字は触読不可能なことは分かっているが、触読能力はどの程度であるかを実験して確認することも大切だとおっしゃっていました。

川上先生は長年、漢字を盲人にどのようにして教えるべきか、また、漢字についても奥深く寸暇を惜しん

で研究して下さいました。

盲人の文字として定着させるには、触読に便利なこと。漢字の意味が保持されていることの2点が絶対条件だという考えのもとに試行錯誤が続けられました。その結果、従来の6点にこだわらずに8点というのは、「うむ、これは妙案だ！」この増やす2点をどこに付けるべきかということでもいろいろ研究して下さいました。

敏感な指先がいいということで、従来の6点の上に2点加えてこれを漢点字を表す標識と決定されました。始点は漢点字の最初のマスの1の点の上に、終点は漢点字の最後のマスの4の点の上に付けることになりました。すなわち、始点から終点までが漢字1字になりますから、3マス漢点字では2マス目の上には何も付きません。漢点字1字が確定でき、従来の点字体系にふれることなく漢点字と非漢点字の違いが明確になりました。また、それまで漢点字を6点の点字に前置符号を付けることで表していましたが、8点の採用で1マス減って、2マスで表していたものが1マスで、3マスで表していたものが2マスで書き表すことができるようになりました。

「指先の敏感な諸君はわしの作った文字を何の苦もなくスラスラ読んでくれよった、わしはほんまあのと

きは嬉しかったぜ。」と語られる先生の目には光るものがあり、うるんだ声が今も忘れることができせん。もしこのとき盲人が読みこなすことができなかつたら、いまなお漢点字は誕生せず、盲人のみは平安時代にとどまっていたことでしょう。

川上先生が創案して下さった漢点字を生徒に使わせてその様子をごらんになり、研究実験を積み重ねられた結果漢点字は誕生しました。

## 漢点字は触読可能

漢点字は盲人が読み書きできる漢字の点字です。漢点字はただパソコンに入力するためのものではありません。パソコンに入力するだけのものなら記号化されたもの（例えば、JISコードやソフトJISコードなど）を使用してもいいと思います。

また、漢点字は速記文字として墨点で書くこともできます。これは川上先生はじめ晴眼者が利用し、十分使えると重宝しておられます。だから漢点字は漢字の最終の略字になると川上先生はおっしゃっていました。私が漢点字を習いはじめた1970年ごろは、漢点字を書く道具はありませんでした。それで前置符号（1マス漢点字には6の点、2マス漢点字には5・6

の点）を使って漢点字を表していました。従来の点字板で書きましたが、読むのに困難をきたしました。川上先生が書いて下さった漢点字のテキストは違和感なく読めるのに、前置符号方式ではこんなに読みにくくなるのですねと、川上先生はじめ皆さんとよく話しました。前置符号を使って書いていた文章は、漢点字のテキストの書き取りなどでした。最近のように、パソコン通信で入手した英文や記号類が混在した文章では、もうお手あげだと思えます。

## 漢点字の紹介

漢点字は漢字と同様に表意文字です。

漢字を分解して部首選択統合して誕生したのが漢点字です。私たち盲人も晴眼者と偏や旁りをいって漢字の会話ができます。

紙面の都合上ここでは漢点字の一連性文字の妙味のみをご紹介します。いただきます。

漢点字本体は従来の6点で構成されています。上の2点は始点（漢点字が始まる標識）・終点（漢点字が終わる標識）です。

言偏は「え」、木偏は「き」、人偏は「な」、寸は「4・5の点」と「し」、主は「へ」と「3の点」、

討は言偏に寸ですから「えし」、村は木偏に寸ですから「きし」、付は人偏に寸ですから「なし」、註は言偏に主ですから「えへ」、柱は木偏に主ですから「きへ」、住は人偏に主ですから「なへ」というように漢点字は漢字の一連性が保たれています。

### 思いがけない漢字との出会い

私は従来の仮名点字で読書していたころは、カツアイトとシヨリヤクは同じように使えばいいと思っていました。ところが、漢点字で読書するようになり、割愛にであいました。

えっ！省くのに愛なの？とびつくりしました。調べてみると、省きたくないがしかたなく惜しみながら省くとき、もつたないと思いつつ愛おしみながら切り捨てるときに使うとありました。表音文字の読書では気がつかず、割愛と書けばいいところを省略と書き、大変失礼なことをしてきたことと思います。このようなことは他にもたくさんあることと思います。

### 漢点字で盲教育をお願い致します

盲学校の教育の現場で、あるいは統合教育の現場で盲児童・盲生徒に、漢点字で教育していただきたく切

望致します。

この素晴らしい漢点字を千代に至るまで伝授したいということもありますが、漢字を知らない盲人は私たちの世代で終わって欲しいのです。

晴眼者は散歩をしても電車の車内でも、無意識のうちに文字が目飛びこんできます。しかし、私たち盲人は意識して点字を読まないで文字に触れることはできません。だから、若い時に時間をかけて習わないと身に付かないと思います。

晴眼者が国語の時間に筆順や筆さばきを習うように、私たち盲人も授業の中で手にとって1字1字丁寧に、盲教育の現場で教えていただきたいのです。例えば、峠は山に上下と書くが、峠は山の上にあることが多いから漢点字では下を省略して「やう」となったというようにです。

漢字を点線で、偏・旁りなどと漢字を分解して、源字から略字に至るまで漢字はこうであるから漢点字はこうなったというふうにです。漢点字は源字から構成されている字もあるからです。それから、詳細にその漢字の持つ意味や読み方や熟語や関連した文字なども教えていただけるようお願い致します。

そうして教えていただくと、私たち盲人も漢字と親しむことができるようになることでしょう。理数や

語学を漢点字で学習できると、理解力が高まることと  
思います。

## ソフトなどの紹介

漢点字を習い初めたころ、川上先生の研究室になつて  
いた印刷室に邦文タイプライターがおいであり、そ  
れに触れていると、「これは、諸君には使えませんが、  
そのうちコンピューターが学校や図書館に導入されま  
す。それで諸君が漢点字を入力するとテレビのような  
画面に漢字が映ります。もちろん晴眼者が漢字で入力  
したものを、そのまま漢点字に書き出してその場で読  
めるようになります。ですから、今からしつかり漢点  
字を覚えておきなさい」。『うわー！そんなことが  
できるようになるのですか？』私たち生徒は漢点字の  
学習に意欲が湧き希望が膨らみました。

このときは夢のような感じで聞いておりましたが、  
村尾氏開発のOPというソフトは全く川上先生がおつ  
しゃっていたものと同じものになりました。

漢点字を盲教育の現場にとりいれていたときに  
に、晴眼者の先生が漢点字をご存じなくても盲人に教  
育できるように、私たちのために開発していただいた  
OP・OX・PotKey・OPQR・MTALK

などというソフトやぼつぼつ君というキーボードがあ  
ります。

「ぼつぼつ君」というのは、点字キーボードです。  
ぼつぼつ君とパソコンとの接続は、RS-232Cで  
します。または、USBシリアルアダプターを使うこ  
ともできます。点字の1の点を4箇所から選ぶことが  
できます。上面に11個のキーがあります。この11  
個のキーを組み合わせて使うことによって、通常のキ  
ーボードでおこなえるほとんどのキー操作ができます。  
入力には点字形式でします。下記にご紹介するソフトな  
どでご利用いただけます。

「OX」は、DOS汎用で、テキストデータを2行  
のNABCCコードに変換するソフトです。

「OP」は、DOS/V機のMS-DOS上で使用  
します。漢字から漢点字へ、漢点字から漢字へと相互  
に変換できます。テキストファイルで管理していま  
すので一般のワープロソフトなどでも墨字印刷ができま  
す。入力はぼつぼつ君から漢点字入力はもちろんのこと  
と、通常のキーボードから仮名漢字変換でもできます。  
テキストファイルを漢点字プリントできます。

「PotKey」は、Windows上で使用する  
ソフトです。ぼつぼつ君を利用し、点字形式で入力し  
ます。Windowsとぼつぼつ君の連絡役を務めま



す。Windowsのほとんどのソフトに対応して  
ますので、私たち盲人も晴眼者と同じソフトを使うこ  
とができます。

それから、Windows上でピンディスプレイに  
表示するソフト「OPQR」を開発中です。ぼつぼつ  
君から入力したものと同じ点字形式で、ピンディスプ  
レーに表示しておりますし、画面にもピンディスプレイ  
が描かれ点字形式で表示しております。もちろん通  
常のキーボードから仮名漢字変換で入力した文字もピ  
ンディスプレイや画面に表示しております。ですから  
漢点字をご存じでない晴眼者の先生が、ご自分が使っ  
ておられるソフトを使って盲人に漢点字を教えること  
ができます。

「M TALK」はWZのマクロです。入力るとき  
は詳細読みをし、左右カーソルのときは漢点字を仮名  
点字読みするものです。例えば、細なら入力時は「ホ  
ソイサイ」といい、左右カーソルでは「イロハタバ  
コ」といいます。

この原稿は、Windows上でぼつぼつ君とPo  
t Keyで入力し、OPQRで確認しながら作成して  
おります。

今後の予定ですが、Windows上で使うソフト  
としてOPやOXなどです。その過程で墨点印刷もで

きるようにしていただきたいと願っています。

なお、ソフトやぼつぼつ君についての詳細なことは、  
村尾氏のホームページをごらん下さい。「漢点字」と  
検索して下さると辿り着くようにしてあるそうです。

## 漢点字の活用

仮名漢字変換で入力すると、変換ソフトが間違っ  
とがあります。お互いに音声で聞いていると誤字があ  
ってもそれに気がつきません。これは先天盲のものだ  
けでなく中途失明の方も同じです。いくら漢字の知識  
があっても音声では確認が困難です。もちろん晴眼者  
も見落とすことがあるぐらいですから、弱視者も誤字  
を書いてしまうことがあります。しかし、晴眼者や弱  
視者は読み直すことができますので後から訂正ができ  
ます。ところが音声で1字1字確認するのはほんとう  
に大変ですから訂正は困難です。

「読書百遍」の諺のごとく、漢点字で読書し、忘れ  
て調べて覚えて、覚えた文字をぼつぼつ君から漢点字  
直接入力して下さい。

将来の盲人は、私のように漢字で悩むことなく、全  
世界の人々と通信網を利用して、文字交換ができるよ  
うになりますことを心より切望しております。

## 点字から識字までの距離（一六）

山内 薫（墨田区立緑図書館）

以前あるシンポジウムで「点字は一次元情報である」と述べたシンポジストがいた。文字を読むということは本来一次元情報の摂取ではあるが、私たちは多くの場合書かれたものを、先ず二次元情報として捉えた後に、選択してそれを読んでいる。例えば新聞を開いて全体に目を通し、見出しの興味のある部分を見つけ、その記事を読むということや、常に無意識に繰り返している。しかし、点字を触読するということを考えてみるとそうはいかない。よく引き合いに出される『新コンサイス英和辞典』は、点字版が百分冊と非常に大部になり、一列に並べただけで五メートル余になつてしまう。「コンサイス」には簡潔なという意味があり、この辞書は手軽に持ち歩いたり、即座に引くことが出来るように、コンパクトな大きさになつている。国語辞典、漢字辞典、英和辞典、和英辞典など、私たちが机の片隅に置いて手軽に引いている辞書を点字版で手元に置こうとすれば、押入の半分は辞書で埋まつてしまう。また、ある単語を見つけるのに百分冊の中からその単語を捜し出すことを想像して欲しい。そこに横たわっているのは、スペースの格差、そして時間

差の問題である。

一次元情報という意味では、点字と共に、いや今や点字以上に需要がある音声による読書や情報摂取についても同様のことが言える。シンポジウムのなかで紹介されている例を紹介すると、生協の運動に関わっている全員の主婦たちが、商品リストから欲しいものを選ぶように、その商品リストをテープ化している音訳グループがあり、九十分テープにそのリストを収録しているという。一般の主婦が生協の商品リストから必要なものを選ぶのはせいぜい十分もあれば事足りるだろうが、テープ版では一時間以上聞いていなければ、その全容を掴めず、リストではあちこちひっくり返して、考えながら購入するものを決めることが出来るが、テープではなかなかそういう訳にはいかないだろう。また、新聞に折り込まれた今日のスーパーの売り出し広告が、翌日点訳なり音訳なりされても何の意味もないのである。

墨田区の図書館では、「月刊経済情報」という経済関係の週刊誌の目次だけを音訳したテープを十年ほど前から作っている。これは二つの週刊誌の目次を四週間分まとめて、月に一度テープ化しているもので、目次を聞いて読みたい記事があれば、その記事をリクエストしてもらえれば、一週間程度でテープ化するが、

電話で読んでしまうというものである。利用者は「目次だけ読んでもらえれば必要な情報のおよそ八割は摂取できる。もし注目の二十社というような目次があったら、その二十社の名前を読み込んでくれれば、九割の求める情報が得られる。なお詳しく知りたい記事についてはリクエストするので全文読んで欲しい」と当初話していた。三年ほどこのテープ版を毎月作り続けていたが、当時リクエストのくる記事は毎月九十分テープにして二本程度だった。その後点訳グループの方が点訳を申し出てくれ、点字版も届けるようになった。こちらの方は毎週本誌が発行されてから三日くらいで利用者の手元に届くようになり、その結果記事のリクエストは毎月九十分テープで八本から十本と飛躍的に多くなったのである。つまりテープ版で一月前の目次を聞いても、今の時点で必要な情報は限られてしまいが、数日後に目次が届けばそれだけ必要な情報が増えるという関係にあり、特に経済の分野では情報の速報性が命と言ってもよく、提供できる時間の短縮が図書館の大きな課題であると実感させられた訳である。

さて、点字による情報が一次元情報であるということをもう少し考えてみると、点字では「ジョ」「ー」「ホ」「ー」というように一方向の読みをせざるを得ないが、私たちが「情報」や例えば「図書館」という

文字を読むときには、必ずしも「情」「報」、「図」「書」「館」の順番に読んでいくのではなく、視点は相当に揺れているように感じられる。例えば図書館でいえば、三つの漢字の集合の内、最初に認知するのは「書」であるような気がするのだ。従って漢字を読む場合にも二次元的な捉え方をしていくのではないかと思われる。また、「情」という意味を持った符号である漢字と「ジョー」という音との間には、その後にくる選択肢において相当の格差が存在する。こうしたことを考えると視覚による文字の情報摂取と触読の点字による情報摂取は、その経路にかなりの違いがあるように考えられる。その点で「仮名点字」と「漢点字」の間には、情報摂取におけるかなりの格差が存在するように思えてならない。

しかし、「漢点字」も触読文字である以上一次元情報であることを免れないので、先に問題にした「時間」「時間差」という大きな課題をいかに短縮するか、いかに効率的に情報が得られるようにするか、という問題は依然として残ることになる。

図書館では、点訳や音訳について、何よりも速く提供することを最優先しようと努力しているが、この「時間差」の問題は今後も大きな課題として残っている。

いのち 「靈の巫」 命

小学校教師 伊藤 邦博

若いころは人間としていかに生きるべきかと考えてきました。歳を重ねてきて、自分を越えた大きなものに自分が生かされていることに気づきます。

苦しい時や行き詰まった時、私は「まだ、四十九歳、まだまだ青二才」と考えることにしています。この考えは、私が人生で一番辛いときに、担任していたお子さんのお母さんが教えてくれました。つい愚痴をこぼした私にそのお母さんはこう話してくれました。「歳をとったなんて思っちゃだめですよ。まだ〇〇歳なんだからと考えるくては」と。このお母さん自身大病を患いながらも、真剣に学び、生きている方でしたので、説得力がありました。有り難い言葉でした。生き続け、生きている限り私も学び続けていこうと考えられるようになりました。

私は特定の信仰はもちませんが、時々「まだ、生きていていいんですね。」と自分を越えた大きなものについて聞かれます。

次の詩は最近読んだ詩の中でもっとも感銘を受けた作品です。

死の問題は

今 始まったのではない

生まれたときから

もう 始まっていたのです

点滴棒をカラカラ押して

青白い顔に

幼さ残して歩く

九歳の少年に：

母親に抱かれ

乳も吸う力もない

赤ん坊の

下げられた管の数々に：

気がつけば

私 今四十六歳

ありがたい年齢だったのです

鈴木 章子著「癌告知のあとで」

この詩を作った鈴木さんはお寺の奥さんで、幼稚園の先生をしていましたが、癌により四十七歳で亡くなりました。

生と死、大人と子どもを対比させながら、四十六歳になつて突然癌を患い、訪れようとしている自分自身の死を見つめることで、自分の仕事や人生を見つめなおしています。その思索の結果、四十六年、自分を越えた大きなものに生かされてきたことに気づき、それを教えてくれた癌に感謝をしています。

この詩は人間の悲しみと人間はそれを越えることによつて、あらためて生きることの意味をとらえ直すことができることを清冽に表現しています。

命を与えられることは死へ向かうスタートとよく言われます。しかし、精神的な挫折や死に向かいあわざるをえない病気を経験しないで生活している時、私たちは死を感じることも考えることもしません。

私たちは病気をして初めて健康でいることの有り難さを感じます。大切な人を失つて初めてその人の存在の大きさ、命のかけがえのなさ、はかなさを思い知ります。頭ではわかつているつもりでも、実際に経験してみても初めて身に染みてわかることがたくさんあります。人間がひとつのものを獲得するとは、ひとつのものを失うことと思えてなりません。人間の感覚とはな

んと不条理なものなのでしょう。

私自身も死と向き合わなければならぬ体験をしました。見たくないものを見なければならぬ経験を通して、人に励まされながら、「自分を越えた大きなものに生かされている自分」に気づき、今生きていることの有り難さを感じられる人間に変わったように思います。

それ以後、自分自身が大事だと考えることに対しては頑固になる一方で、私に縁のある人々はもちろん、私が出会ったたくさんの方々の死者たちの思いも謙虚に受け止められるようになりました。

私も四十九歳、実感をもつて鈴木さんの書いた詩を読みました。

この詩を読んで、自分自身の今をあらためて見つめてみた時、いのちという文字について考えてみたくなりました。

いのち、命、生命、*Life*。たくさんの方々の言葉があります。

私たちは命という漢字に「イノチ」という読みをあたりまえに使っています。しかし、ちよつと待てよ、と考えているうちにいくつかの疑問が湧いてきました。

——いのちは和語である。漢字が日本に伝えられる

前から私たちの先祖は書き言葉としての文字は持たなかったが、話し言葉としてのいのちという言葉を使っていたはずだ。しかし万葉仮名を思い浮かべてみれば古代の日本人がはじめから命という漢字を使っていたはずはない。一文字の「命」という文字に三音節の読みを与えることは、漢字が日本に伝来してから、和語としての読みを与え、使いこなしたことを表しているのではないか。もしそうであるなら漢字伝来以来相当の時間がたっているのではないか。生命や「命」は漢語であり音読みだが、「いのち」は和語であるから、はじめに当てはめた文字は今の文字とは異なるはずだ。もしそうなら、どんな漢字を当てはめていたのだろうか。――

そんなことを考えながら、白川静さんの「字訓」で調べてみました。

いのち〔命〕 「靈の巫」の意であろう。「い」は「生き」「息吹き」の「い」。生命の直接的なあかしの息吹きを以て、生命の義とする。それは各民族語の間で共通する観念で spirit や animal はみな「いきするもの」を意味した。「いき」がつづくことを「万葉」に「いきのを」という。

やはり、「いのち」という言葉はすでに古代日本語としてあったのです。その意味するところは息するものです。人間、動物だけでなく、山川草木一木一草すべてに命を感じていたのでしょう。古代中国人はもちろん朝鮮民族やネイティブアメリカンの自然観もまったく同じなので、各民族語の間で共通する観念という説明も納得できます。(ネイティブアメリカンはかつてアメリカインディアンと呼ばれていた人々です。残念なことに、彼らは文字をもちませんでした。)

朝鮮半島を経由して漢字がわが国に入ってきて、書き言葉としての機能を持った時、いのちという単語をはじめに与えた文字が「靈の巫」ではなかったのでしょうか。

「靈の巫」の字源や字義をたどってみましょう。「生」は草木が生えてくることを表す象形文字であり、靈(靈)は雷と巫が合体した合わせ漢字……: 会意文字です。

雷は象形文字どうしの雨と **𠄎** が合体した会意文字であり、神に祈る祝詞を入れる器である **𠄎** を3つ並べて、雨乞いを意味する漢字です。

靈(靈)は雷という会意文字と巫という会意文字が合体してできた会意文字で、靈(靈)は雨乞いをする


巫女を表し、この文字は降雨を祈って巫女が祭壇の前で舞う儀式を表す文字です。のち、雨乞いの意味だけでなく、神が天界から地上へ降りてくるように願う時にも同じ形式の儀式が行われるので、神や靈魂にかかわることをすべて霊と呼ぶようになります。


私たちの祖先は、息するものすべてに靈的な魂を見、それを「いのち」と呼んだのでしよう。

そして書き言葉としては、はじめは「靈の巫」、その後「靈の巫」を捨て「命」を当てはめたのでしよう。平仮名が考案されてからは「命」と「いのち」の両方を使うようになったのではないのでしょうか。言葉がいつのまにか言の葉、そして言葉となったのと同じかもしれません。

ではなぜ「靈の巫」が「命」に変えられたのでしょうか。命の字源をたどってみるとわかります。

「命」ははじめ「令」の文字でした。

古代文字は 。頭に冠をつけ、神の意思をたずねるために跪いている人の形を表しています。それゆえ神の啓示を表す言葉になりました。

つまり神の命令を意味しました。西周中期以降になつて命の字が登場したようです。命は  と  が合体

してできた会意文字で、神に祈つてそのお告げを待ち、その与えられたものを「命」といいました。つまり神の命令を意味したのです。このとき現代の私たちが使う「いのち」という意味はありませんでした。

のち、人の寿命も天の与えるところという思想が登場し、「命」に「いのち」の意味を含むようになりました。論語に次のような文があります。

「命を知らざれば、以つて君子為ること無きなり」

ここでいう命には、寿命のみでなく人の生きざまも含められていると解釈されています。紀元前500年ころ孔子の時代のことです。甲骨文字が使われていたとされる殷の時代から約1000年後のことです。

古代の日本人は、現在の私たちが意味して使う「いのち」に「靈の巫」という漢字を当てはめていたのだと思います。その後、儒教や仏教を代表とする大陸からの文化や思想、政治支配体制などが伝えられ、国造り進めていく過程で、人民を支配するために、人民の「いのち」は支配者のものであり、支配者は神であるという思想のもとを「命」と書き換えられていったのではないかと推測します。原初の思想の強制的廃棄といえるでしょう。中国で漢字を国家として統一したのは秦の始皇帝です。地方によつて税を取り立て、記録するには文字がそろっていないなければならないという理

由からです。支配するものの意図によつて「靈いの巫ち」という字が「命」に置き換えられたのも、同じようにとらえることができるのではないでしょうか。ところで、日本に漢字が伝えられたのはいつ頃でしょうか。

わが国最古の書物といわれる古事記が作られたのが712年です。日本書紀は稗田阿礼ひえだのあれに暗誦させていたのを太安万侶が筆録したものです。713年に風土記の編纂命令が出され、720年に日本書紀が完成されています。750年ころには万葉集が編まれています。このころには漢字を日本語へ実に上手く適応させていました。有名な柿本人麻呂の歌

東の野にかぎろひの 立つ見えて 返り見すれば  
月かたぶきぬ

万葉集には漢字で次のように表現されます。

東野炎立所見而 反見為者月西渡

ここで注目する点は、この歌に与えられている漢字の読みはすべて訓読みであることです。万葉集が編集されたころには、当時の日本人は、漢字に訓読みを与

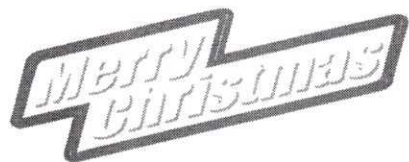
えることによつて日本語として見事に使いこなしていることです。古代中国でつくりだされた漢字の字形や字義、字音などを巧みに取り入れ、当時の日本語に最もふさわしいようにアレンジして使いこなすことによつて漢字の日本語化、つまり国語化を実現しているのです。このころに漢字を完全に国語化しているとなれば、もつとはるか昔に漢字は伝来していたはずですが、現在の歴史の教科書では5世紀ごろ百濟から漢字や儒教が伝えられ、6世紀に前半に仏教が伝えられたとされていますが、私はもつと昔に漢字がわが国に伝来したのではないかと思えます。

倭の奴国王が後漢に使いを送り、金印を受けたのが紀元57年、吉野ケ里遺跡が栄えたころです。漢に遣いを出し、金印を授与されているのです。中国の史書『後漢書』に正確に記されています。倭の奴国王が使者に何らかの文書を持たせたと考えるの自然ではないでしょうか。このころ、いやそれよりも以前に漢字は日本に伝わってきたと私には思えます。

漢字がわが国に伝えられてから、これを日本語に適応させ、成熟させて国語として使いこなすまでには相当の時間が必要であったはずですから。

三内丸山遺跡など日本古代史の定説を覆す数々の発掘には驚かされるばかりです。これから行われる発掘





調査によってこの問いにする意外な答えが出てくるかもしれません。

今日まで「靈の巫」は廃棄されたままです。「命」とい文字、なんとつまらない文字でしょうか。皮肉にもいのちが大切にされない今の時代の「いのち観」を的確に表しています。

「靈の巫」のほう「いのち」の本質を見事に表しています。

「靈の巫」を復活させたいのですが、それが叶わないうならせめて平仮名の『いのち』を使っていききたいと思えてなりません。

(漢字の字源などは、白川静さん著「字統」「字訓」「字通」によるものです。)

今回は私の思いから「いのち」について考えたことを書かせていただきました。次回は前回の羽化でお約束した「字」から「名」について書かせていただきます。これが実は命という文字と大きな関係があるのです。

— 終 —

## 点字の読みづらさと漢点字の触読について (五)

代表 岡田 健嗣

### 三 点字の触読について (承前)

隠された点字、四点点字と三点点字

私たちが点字を触読するという時、その点字符号に指先が触れて、その符号が何の字であるか瞬時に“分かる”というのが、この論の出発点でした。指に触れた途端に“分かる”ことで、辛うじて点字が読めていると言っても過言でないほどに、点字の読みには困難が付いて回っているのです。

これまで六つの点の組み合わせ六三通り(フリーは除く)を、いかに瞬時に読み取ろうとしているか考えて来ました。一つは六つの点の組み合わせによる点字符号の対化です。合わせて六点になる符号を二つ対にすることで、分別の幅を半分に縮小しているのではないかと考えました。

二つは、点字符号のフォルム化です。点字の符号を点の集合ではなく、象として読み取っているのではないだろうか。点の組み合わせを想像の線で結ぶことで、フォルムを与えることになるのではないだろうか、と

いうのです。

ブライユの点字符号表(表一)を見ておきますと、もう一つ大きな要素に気付かされます。

ブライユの点字符号表は、六三個の点字符号が、一定の順序で配列されています。しかし、順序に類別できるものとそうでないものとを大別していません。一番から五〇番までは、大変秩序だった配列になっています。それに対して、五一番から六三番までが、その類別に合わないものとして、別に扱われて収められています。

一番から五〇番の秩序とは、一番から一〇番の符号を基本として、それに一定の約束に従って点を付加したり位置を変えたりすることです。

もう一度点字の構成を考えてみましょう。

点字は六つの点で構成されています。縦三つ、横二列です。

ブライユの点字符号表の一番から一〇番は、六つの点の上四つだけを使って構成されています。四つの点の組み合わせの数は、フリーを含めて一六通りです。その中の一〇個を基本的な点字符号としたのです。

というのが従来の説明でした。しかしもっとよく見ると、ブライユの考えた点字は、本来四つの点でできていたのではないだろうか、と思わせるものがあります。と申しますのは、点字を触読する者として、私に

は、四つの点だけで構成されている点字と、六つの点で構成されている点字では、その触感が異なって感じられるからです。そして、四点の点字が六点の点字との区別を求めて、自己主張しているように思われてなりません。

また、右三点の点字符号があります。これは必ず二マスの点字として用いられるものです。これも点字の大きな特徴の一つである(前置符号)としてだけ用いられる符号です。

表三は、ブライユの点字符号表から、四点からできている点字符号と、右三点でできている点字符号だけを取り出したものです。

四点点字は、表三の 1. と 5.、6. の点字符号です。1. の1番から10番は、六つの点の内の上の四つの点だけで構成されていて、最下点の二つの点が用いられません。ここではこれを「upper 4 dots braille」の意味で「upper4」と呼ぶことにします。

5. の41番から50番は、六つの点の内の下の方の点だけで構成されるもので、上の二つの点が用いられません。ここではこれを「lower 4 dots braille」の意味で「lower4」と呼ぶことにします。また6. の55、56番の符号を、このlower4に加えました。その訳は、55、56番の符号を、六つの点のupper4の位置にシフトして最下点を空けますと、lower4の4

1、43番と同じ符号になって、符号が重なってしま  
うからです。

また、「U+57」「U+58」「U+60」「U+62」  
「U+63」の五つの符号は、後に述べる三点点字とし  
て認知されますので、この四点点字には教えません。  
従ってここで言う四点点字は、upper4が十個、lower4  
が十二個となります。

以上のように、四点点字は通常六つの点の点字の中  
に包含されて用いられますが、その時はupper4とlower4  
の二つの姿を現します。そして私たちが点字を触読  
する時、この二つの体系の四つの点を、六つの点の点  
字と明確に区別して認知しなければならぬのです。  
と申しますのは、私たちが点字の符号に指を触れる時  
まず行うのがupper4であるか、lower4であるかの判別  
です。何故なら、何より先ずlower4を見出すことが、  
点字の読みにとって最も大事な要点であるからです。

周知の通り、lower4は点字の世界では句読符や括弧  
など、文字ではないが、文章にとって文字と同程度に  
大切な記号類を表しています。ブライユ以来、点字の  
句読符や括弧は、このlower4で表されて来ました。そ  
れは決して偶然に決まったことではないように思われ  
ます。触読の指は、左上から右下に向かって動きま  
す。触読の指は、左上から右下に向かって動きま  
す。従って、最も早く触れるのが左の最上点、1の点です。  
次に触れるのが右の最上点、4の点です。この1の点

と4の点に指が触れるかどうか、すなわちlower4であ  
るかどうかが、そのまま文字であるか文字以外の記号  
であるかの区別となるのです。

文章の約束事としての文字と文字以外の記号を、点  
字の表記法に表現しようとする時、恐らく大きな苦悩  
を伴ったに違いありません。試行錯誤が幾度となく繰  
り返されたでしょうし、点字の構成の改変も行われた  
と想像されます。そこで行き当たったのがlower4です。

ブライユの点字表(表一)では、lower4は規則的な  
配列の最後の41番からとなっています。まるで「こ  
の点字は文字ではないよ」と言わんばかりの扱いでは  
ないでしょうか。この点字符号の中に句読符その他の  
記号類を押し込めることができれば、1の点か4の点  
がある点字符号は全て「文字」であり、1の点も4の  
点もない符号は「文字」ではないということになるの  
です。

このことは点字を触読する者にとってあまりに自明  
のことで、ことさら取り上げるべきことでもないよう  
に思われています。しかし、敢えて私がここで強調し  
ますのは、現在本会で開発していたいている漢点字  
変換ソフト『EIBRK』の点字符号を登録した経験  
があるからです。このプログラムは、JISコードに  
規定された文字と記号類を、漢点字、仮名点字、その  
他の点字の符号類に変換するものです。しかし問題が

ありました。このようにコンピュータのコードを媒介にして点字符号を打ち出すという試みは、言わば未踏の世界への一歩であったからです。それまでの点字は、点字の世界を一步も出ることがなく、句読符や括弧の類など記号類も点字に都合よく解釈して使つて来ました。しかし、コンピュータのコードから点字符号を作り出すのですから、一般のルールを点字の世界に持ち込む結果になりました。

漢点字は、視覚障害者に文章の世界をもたらすものではありましたが、それまでは、やはり点字の世界のものでした。既存の点字の表記法に従うところが多く、特に記号類への取り組みは大変遅れていました。本会のプログラム開発は、そのような中、図らずも漢点字を使った表記法に、一般の文章の表記法を持ち込むことになりました。点字の世界で使われて来た記号類では、JISコードに規定された記号を表すことができなかつたのです。そこで私が直面したのは、JISコードに対応した点字の符号を新たに作らなければならぬことでした。そして、幾度かの実験の末、前記のような結論〈記号類はlower4でなければならぬ〉に達着したのでした。

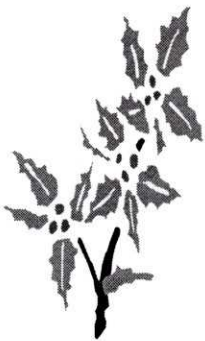
もう一つの四点点字upper4は、文字であることと、六点点字でないことを表しています。upper4は、指を最下点まで下げて確認します。最下点の3と6の点が

なければupper4です。

upper4もlower4も、四つの点の組み合わせ、しかもその数が減じられて少数です。upper4では点一つが「 $\cdot\cdot\cdot\cdot$ 」、二つが「 $\cdot\cdot\cdot\cdot\cdot\cdot$ 」、三つが「 $\cdot\cdot\cdot\cdot\cdot\cdot\cdot\cdot$ 」、四つが「 $\cdot\cdot\cdot\cdot\cdot\cdot\cdot\cdot\cdot\cdot$ 」、lower4では一つが「 $\cdot\cdot\cdot\cdot$ 」、二つが「 $\cdot\cdot\cdot\cdot\cdot\cdot$ 」、三つが「 $\cdot\cdot\cdot\cdot\cdot\cdot\cdot\cdot$ 」、四つが「 $\cdot\cdot\cdot\cdot\cdot\cdot\cdot\cdot\cdot\cdot$ 」です。これだけの区別を、先ずlower4であるかどうかから始めて、次にupper4であることを確認して、それ以外の符号を六点の点字とすれば、大変速やかに判別できるのではないのでしょうか。

後に触れることとなりますが、この原則は漢点字にも当てはまります。漢点字の触読も、指先で触れると同時に“分かる”ことが求められます。そのためには、四点の点字であるか、六点の点字であるかの判別が必要で、八点を採用している漢点字では、行頭下点という独特の符号が重要になって来ます。ただし、その〈読み〉は、仮名の点字とは質を異にしており、漢字の読み方の習熟が求められることは言を待ちません。

(以下次号)





【表一】 ルイ・ブライユの点字符号表

1. 1a 2b 3c 4d 5e 6f 7g 8h 9i 10j
2. 11k 12l 13m 14n 15o 16p 17q 18r 19s 20t
3. 21u 22v 23x 24y 25z 26 27 28 29 30
4. 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40w
5. 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50
6. 51 52 53 54 55 56
7. 57 58 59 60 61 62 63

ENGLISH BRAILLE, AMERICAN EDITION 1977:  
American Printing House for the Blind

【表三】 四点点字と三点点字

- UPPER SIDE 4 DOTS BRAILLE
1. 1a 2b 3c 4d 5e 6f 7g 8h 9i 10j
- LOWER SIDE 4 DOTS BRAILLE
5. 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50
6. 55 56
- RIGHT SIDE 3 DOTS BRAILLE
7. 57 58 59 60 61 62 63
- LEFT SIDE 3 DOTS
-

漢点字ってどんな字？ 16



志 志朗(しろう)君  
 未 未来(みき)ちゃん  
 おねえさん

未 あんなにあるなんて  
 思っていたなかった。

お このまえはカタカナと  
 カタカナで書ける漢字を  
 挙げてもらったのよね。

n.

カタカナを構成する  
六つの画

縦線



横線



斜め線 (左右)



角かぎ (上下)



斜めかぎ (上下)



点



志  
漢字の十の画のうち、六つが  
カタカナにも使われているんだね。  
それと、もう一つ。カナにしかない  
“へのじ”の画があった。

お  
そうね。  
じゃあ、カタカナの画数は？

未  
並べてみるわね。

一画のカタカナ

ノ  
フ  
ヘ  
レ



4 個

二画のカタカナ

リムニスア  
ルメヌセイ  
ワヤハソカ  
ヲユヒトク  
ンラマナコ

2 5 個

三画のカタカナ

テサウ  
ミシエ  
モタオ  
ヨチキ  
ロツケ

1 5 個

四画のカタカナ

ネ  
ホ



2 個

お カタカナの特徴は？

志 簡単だよ。

お それの特徴？

未 なんで簡単なの？

志 それは読みが音といっしょだし、カタカナ一つでは意味がないし、ええつと、それに真っ直ぐで画が少ない！

未 カタカナ 46 個のうち、

一画が 4 コ、

二画が 25 コ、

三画が 15 コ、

四画が 2 コ。

見たところの特徴は、直線的で、画が少ない。

お

まだあるわよ、この前を思い出して？



未

志

わかった！漢字とそっくりだったり、部首とそっくりだったり、組み合わせると漢字になったりするのよね。

それは、もと漢字の一部だったのが、音を表すように独立したからなんだよ。

宇 → ウ  
 八 → ハ  
 江 → 工  
 空



カタカナもひらがなも、仮名は一つでは意味がなくて、一つの音だけを表すということね。

どうして仮名ができたか、これは簡単、というわけにはいかないわね。でもね、日本語を書き表すのには、こういう字が必要だったのよ。



未

仮名の働きって、列車の連結のような、細胞と細胞を結ぶ毛細血管のような。

志

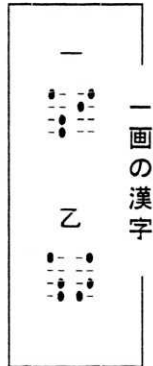
うーん、なんだか変なものだな、漢字と漢字をくっつけたり、あっちに向けたりこっちに向けたり、そんな感じだよ。

お

そして、カタカナの形の特徴は、少ない画と、真っ直ぐな線ね。じゃあ、画の少ない漢字を挙げてみて！

未

一画からね。そっくりさんも入れるわよ。

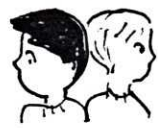


未

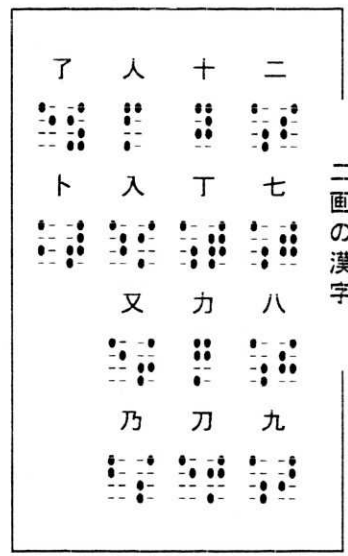
ぐにやぐにやしてるけど、乙も一画ね。

志

“あひる”だよ。カタカナにはない画だ。



志



案外少ないね。二画は、カタカナは25個あるけど、漢字は14個しかない。しかも二、八、力、又、トの五つはカタカナとそっくりさんだ。

二画



漢字 カタカナ

三画の漢字

巾	女	刃	己	久	口	山	上	三
之	子	勺	巳	及	工	川	下	千
丸	也	夕	弓	干	土	大	万	
凡	亡	丈	与	寸	士	小	才	

志  
ずいぶんあるね。



未

漢字だけに使われている画を含んでいるものがあるわ。



お

女 く く の じ  
子 じ て か ぎ  
己 じ つ り ば り  
也 巳 し  
丸 凡 し あ ひ る

漢字って、画が少なくてもカタカナとは違うことが分かってきたわね。

☆

之、及、与、弓は、十の画にない例外の形の画を含んでいます。之の三画目は、横線の変形。及の二画目は、上斜めかぎが二つつながった形。与の二画目・弓の三画目は、斜めかぎの仲間と考えるのもいいでしょう。

未

だんだん数が増えてくるみたい。  
四画なんて、60個以上もあるのよ。

お

なぜかしら？

志

わかった！ それはね、漢字は意味を持って  
いるからなんだ。

意味を合わせたり、意味と音を合わせて、  
どんどん新しい字ができたんだ。

お

三画の漢字にも意味を合わせた字、  
会意文字があるけど、

四画以上の字には  
二画や三画の字を組み合わせて  
音と意味を表す、形声文字が

増えてくるのね。

志

漢字と仮名の違いは、  
ええっと、

漢字は意味を表す字で、  
仮名は他の字を連絡する字  
なんだね。

だからどっちも大事なんだ。

作 岡田 絵 吉田



初恋のひと老いてゐし秋しぐれ

上田 芳一

時雨（しぐれ）とは秋の末から冬の初めにかけて、空は晴れていて降ったり止んだりする通り雨のこと。そうした時雨降る中で、昔恋仲だった男女がばったり会ったのです。

二人は喫茶店にでも入ったのでしょうか。時候の挨拶を皮切りに四方山話を交わしながらお互いに相手のことを「若かった昔に比べて老けたなあ」と思ったことでした。

やがて「じゃあ子供が待っているの」などと云って時雨降る中をそれぞれの思いを胸に別れて行ったのです。（朔）

日向ぼころダンの像に似てゐずや

森田 峠

ロダンの名作「考える人」は深い思索にふけっているように見えるが、一方トイレで用を足しているようにも見えるとも云はれるが、日向ぼっここのポーズに似ているというのは珍説だ。

暖房の普及とせわしない日常生活のせいで、ゆっくり日向ぼっこを楽しむゆとりもないのが現代人だが、たまには、「考える人」になるのも悪くない。（朔）

### 編集後記

現在本会では、ボランティア会員を

募集し、来春には講習会を開きます。

募集要項は以下の通りですので、ご賛同頂け方は、お申し込み下さいますようお願い申し上げます。

#### 【募集要項】

講習会日程…十二年三月五日～二十六日の毎日曜

午後一時三十分～全4回

応募要件 …点字五十音程度を理解し、パソコン

でテキストファイルの作製が出来、

講習終了後活動出来る人十五名

講習参加費…千円

申込み方法…一月五日までに、往復葉書に、使用

パソコン機種・住所・氏名・年齢・

電話番号を記入して、左記宛に郵送

申込先…〒231・8482 中区桜木町1の1

市社協内 横浜漢点字羽化の会

TEL 201・8620

次回の発行は平成十二年一月十五日です。

宗助 悦子

\*本誌（活字版・テープ版・ディスク版）の無断転載はかたくお断り致します。

## 連載 漢点字変換ソフトEIBRKについて(1)

木下 和久

### 1. まえがき

前号でご紹介しましたように、この度漢点字変換ソフト「EIBRK」がバージョンアップされて、バージョン 3.00 となり、同時にそのウィンドウズ版 EIBRKW のバージョン 1.00 が完成しました。この機会に、前回までのマニュアルを大幅に改定し、更に新しいウィンドウズ版についても詳しい使用方法をご紹介しようと、マニュアル解説の続編をお送りします。このプログラム(ソフト)は、横浜漢点字羽化の会が製作した漢点字変換システムで、テキストファイルとして入力された墨字文から、点字プリンターで打ち出すための漢点字のコードに変換したファイルを作成して、点字プリンターで打ち出すものです。また、画面には変換前のテキスト文と、それを漢点字に変換した結果を同時に表示し、その場で文字を挿入したり削除したり(編集)することができます。そして、画面に表示される点字をピンディスプレイに同時に表示させることもできます。

ここではまず MS-DOS 版(主プログラムファイル名は EIBRK.EXE)について、対応している機器とテキストファイルについての基本的な条件と、本システムのインストールについて説明し、その後操作と、テキスト入力についての約束事や漢点字変換してからの編集について説明します。

### 2. 使用可能な機器

本システムは、以下の機器(機種)が使用可能です。

コンピューターおよびOS : NEC 製 PC9801 または PC9821 シリーズ  
(PC9801 互換のエプソン製のパソコンを含む)の MS-DOS

プリンターのブレイル・コメットについては一応動作確認をしていますが、十分なテストができていません。ESA721 以外のプリンターは、それぞれ 8 点点字のモードにして印字しますが、ESA721 は 6 点点字のモードで、グラフィックモードをプログラムの中で切り替えながら印字するようにしています。

プリンターの使い方については、後で詳しく説明します。

ピンディスプレイ : KGS 製のブレイルノート 40A、46C、46D

プリンター : エベレスト、ベイシック D、バーサポイント(J 型と D 型)、ブレイル・コメット、ESA721

### 3. テキストファイルについて

#### (1) テキストファイルの入力

この漢点字変換ソフトは、元となるテキストファイルがあれば、変換そのものは非常に簡単に、自動的にできるようになっています。そして、テキストファイルの入力は、本システムとは関係なく、MS-DOS のファイルとして保存できるものであれば、どのパソコンでも使えます。パソコンの場合は、一般に「一太郎」や「MSワード」などのワープロソフトが使えますが、エディタと呼ばれるテキストファイル入力専用のソフトの方が、身軽で使いよいようです。MS-DOS のバージョン 5.00 以上には **SEDIT.EXE**(エスエディット)というエディタが標準で添付されていますし、本システムにもフリーソフトの **JX.EXE** が入れてあります。**SEDIT** はちょっと大きなファイルだと編集できなくなりますが、**JX** はその問題はありません。

ワープロ専用機で入力したのも、MS-DOS のテキストファイル形式での保存が可能であれば使えます。いずれの場合も、テキストファイルのファイル名としては「.TXT」という拡張子をつけることを忘れないようにして下さい。**EIBRK** は、「.TXT」という拡張子のついたファイルのみを変換の対象としています。

特殊な場合として、点字を直接入力するには、MS-DOS の場合には「一太郎・バージョン4」が便利です。これは、点字のパターンを外字に登録しておいて、その外字ファイルを「一太郎」で使えるようにしておく、と、入力した点字が画面で確認できて、プリンタにも打ち出せるからです。またウィンドウズの場合には、外字ファイルをシステムに登録しておく、「一太郎」だけでなく、その他のワープロソフトや、エディタでこれが利用できるのが便利です。一般の MS-DOS パソコンや、ワープロ専用機では、このような点字の外字は使えませんが、後で詳しく説明するように、半角の 16 進数字を使う方法で点字を直接入力することができます。

#### (2) テキストファイルの中の外字

点字のパターンを登録した外字ファイルは、**TBGAIJ** と **TGGAIJ** で、それぞれに拡張子が **.UFO** と **.TTE** があります。この **.UFO** は「一太郎・バージョン4」に使われるもので、**.TTE** はウィンドウズ用です。ウィンドウズの場合外字ファイルを登録するのはやや複雑ですが、Windows95 については「うか」第5号の解説ページに説明してあります。Windows98 では、若干違いがありますが、ほぼ同じような方法で外字ファイルの登録ができます。

TBGAIJ と TGGAIJ の違いは、前者では1マス8個の点字のうち、点のない場所に短い横線を入れてあるもので、画面や墨字印刷した場合に点字とそうでない文字を区別しやすくしたものです。後者では点のない場所には何もありません。これは、実際の点字そのものの形を表しているといえます。

ここでは DOS 版の一太郎(バージョン4)に TBGAIJ.UFO を登録する方法を説明しましょう。

まず、TBGAIJ.UFO は A:¥TENJ のディレクトリにあるとします。標準的な方法で EIBRK をインストールすると、このファイルは A:¥TENJ にコピーされます。一太郎を立ち上げて、ESC キーを押して、メニューから [O.オプション]—[V.ファイル設定(JW)] を選びます。そうすると、辞書ファイルその他のファイルを設定するメニューとなり、2行目に外字ファイルの名前を入れるようになっています。ここにすでに何かファイル名が入っている場合は、それを削除して TBGAIJ.UFO というファイル名に、パス名(EIBRK の標準では A:¥TENJ¥)をつけて、A:¥TENJ¥TBGAIJ.UFO のように書き入れます。そのままリターンキーを押せば外字ファイルの登録はおしまいです。

最近の EIBRK システムのディスクに入っている\*.UFO ファイルには点字の外字のほかに、経穴などで使用されて、JIS コードにない漢字がいくつか登録されています。これらに割り振られて、登録されている外字にどんなものがあるかは、「一太郎」のメニュー[H.補助登録]—[C.外字]で、さらに ESC でメニューを出し、[P.一覧]で登録されている外字の一覧を見ることができます。これを見れば分かるように、JIS 外漢字の外字コードは F040 から始まる1群に割り当てられ、点字の外字は F440 から始まるコードの範囲に割り当てられています。現在の所、これらの JIS 外漢字の F040 から F083 までの 67 個の外字のうち、38 個については漢点字が作られていて、EIBRK で自動的に漢点字に変換されます。EIBRK での外字の扱いは「一太郎」とは異なっていますが、これらの漢点字が作られている外字については、共通の外字コードで EIBRK 用の外字ファイル TBGAIJ.FNT が作られ、EIBRK のシステムディスクに入っています。そして、最初に EIBRK を立ち上げると、MS-DOS にこれらの外字が自動的に登録され、EIBRK の画面や、SEDIY や JX などのエディタの画面で表示できるようになります。また、EIBRK を立ち上げる前にエディタを使いたいような場合は、コンピュータを立ち上げた段階で MS-DOS への外字登録ができると便利です。そのために、TBGAIJ.EXE というプログラムが用意されています。例えば、TBGAIJ.EXE と TBGAIJ.FNT が A:¥TENJ にある場合は、「A:¥TENJ¥TBGAIJ A:¥TENJ」という1行を AUTOEXEC.BAT の中に書き加えておくと、いつでもエディタでこれらの外字が表示できるようになります。

#### 4. 漢点字変換システムのインストール

本システムをインストールするには、まず最初にシステムの入ったフロッピーディスクをフロッピードライブに入れ、そのドライブをカレントドライブにします。例えば、フロッピードライブがC :の場合は「C :>」とします。次に「EBINST >」と入力するとインストールプログラムが立ち上がり、必要なパス名を聞いてきますので、それに答えて行けば、自然に終了まで行きます。インストールを途中で中止したい場合は、どの時点でも、ESCキーで中止することができます。

以下に主な注意事項を記します。

(1)インストールするパスの指定では、A:¥TENJ など、ドライブ名とサブディレクトリ名を入力して下さい。何も入力しないでリターンキーを押すと、インストールは中止されます。

(2)インストールは圧縮ファイルの解凍で行われますが、その際に最新のファイルが存在する場合は、自動的にスキップされますので新規のインストールもバージョンアップも区別しないで実行できます。

(3)ファイルのコピーが完了すると、最初のインストールの時は入出力パスを聞いてきます。これは変換・編集作業をするときのファイルを入れておくパス名を登録するもので、このパス1に登録されたパスがEIBRK を立ち上げた直後のファイル一覧表のパスになります。このときファンクション・キーの2または3を押すと、ここで登録したパス2または3が選択されて、その中のファイル一覧が表示されます。例えばf.1にC: (フロッピードライブ) を、f.2にA:¥DOC (例えばハードディスクの文書専用ドライブとして確保してある場合) を指定しておく、ファイル選択の時、都合のよいパスを簡単に選択することができます。このファンクションキーに割り付けられたパスは、その後メニューの「オプション」で変更することができます。

(4)インストールが完了すると、A :ドライブのルートディレクトリに、あとで EIBRK を簡単に起動できるバッチファイル(EB.BAT)が作られ、以後どのディレクトリにいても、「EB」と入力すると、EIBRK システムが立ち上がります。

もし、EB を入力しても、「コマンドまたはファイル名が違います」というようなメッセージが出た場合は、パス設定が不十分なので、プログラムを一旦終了してコンピュータを再起動して下さい。